

## 【第1号議案】

### 2016（平成28）年度事業報告

日本鑄造工学会は平成23（2011）年4月1日に公益社団法人として登記を行い、新定款第3条（目的）のとおり「鑄造工学に係る学術及び技術の振興を図り、日本及び世界のものづくり基盤産業の発展に寄与し、社会の豊かな生活を実現することを目的とする」に合致した公益事業をこれまで以上に活発に展開してきた。経済情勢の現況や会員数の減少など本会を取り巻く情勢は厳しいが、平成21（2009）年度に策定した長期ビジョンのロードマップの進捗を振り返り、新たな第2期長期ビジョンを策定し、2014年5月に開催した第164回全国講演大会で会長から展開した。具体的には鑄造に携わる仲間を増やすことを狙いに、鑄造の魅力は今まで以上に多くの若い方々に伝える活動を推進することである。一昨年度からそのための活動資金を予算化し、活動を開始した。

公益事業としては、公1：鑄造工学に関する学術講演会、講習会等の開催事業、公2：鑄造工学に関する調査研究事業及び相談事業、公3：鑄造工学に関する表彰及び奨励事業、公4：鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業、そのほか、他1：会員に頒布する図書発行事業、他2として新たに鑄造工学に関する相談事業を加え、6つの区分にしたがって活動を行った。

平成28（2016）年度実施した事業は以下のとおりである。

#### 1. 学術講演会、講習会等の開催事業（公1）

国内の鑄造業界においてはさまざまな課題が山積している。課題克服に向け、この技術を受け継ぎ、さらにそれらを発展させることのできる人材の育成、海外との競争力強化、経営基盤の強化、環境対策、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく努力をどのように進めるかの検討を行ってきた。

2016年度は、5月に26年ぶりとなる世界鑄造会議（WFC2016）を開催し、海外からの323名（35か国）を加えて、国内外合わせて960名を超えた。講演発表は、ポスター発表を含めて203件、展示会は151社の企業参加が得られ、鑄物に関する技術情報や技術動向の交流が行われた。全国講演大会は、秋季に1回開催し、合計150件の研究成果の発表・討論を行った。また技術講習会、若手鑄造技術者を中心とするYFE大会、鑄造関連工場の見学会、鑄造関連商品やその技術に関する展示会などの諸行事も同時に開催し、一般市民や会員にとっての交流の場を作ってきた。WFC2016では、特別講演や招待講演として、韓国、中国、フランスなどの鑄造工学会との交流講演や国内要人の講演を実施した。また秋季大会では2016年度、鑄造工学会の技術賞、豊田賞を受賞した方々の講演を実施した。さらに鑄物や鑄造技術を身近に感じることができる「こども鑄物教室」、学生を対象にした鑄造コンテストや、工場見学会により、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく機会を設け、鑄造工学や鑄物製品に初めて触れ、それを端緒にして鑄造技術を受け継いでいく人材の育成を行った。具体的には、高校生を対象に、北海道地区で「理系学生応援プロジェクト」を2回開催し、鑄造技術や工学に興味を持ってもらう機会を作った。

また各支部主催で、地域に密着した、要求に沿ったテーマを選び、講演会、講習会を実施した。その他、関連団体との共催による講演会、講習会、研修会の開催も行った。

- (1) 世界鑄造会議（WFC2016）を名古屋にて開催
- (2) 全国講演大会を秋季、中国四国支部（高知）で開催。
- (3) 講演会・技術講習会等は、特別講演、地域等の協力を得て、北海道、東北、関東、北陸、

東海、関西、中国四国、九州の全支部で、その特徴を生かして計 37 回開催。

- (4) シンポジウムを 2 回開催。
- (5) YFE 大会は全国講演大会時の開催，若手討論会を含み 5 回開催。
- (6) 工場見学会は講演会開催地での見学，YFE 大会時の見学など 7 回開催。
- (7) こども鋳物教室は 4 会場で開催。
- (8) 日韓，日中，フランス交流講演を 1 回開催。
- (9) AFC-13 アジア鋳物会議参加
- (10) 中国鋳造工学会参加
- (11) 日韓共同セッション参加
- (12) 人材育成のための鋳造カレッジは，日本鋳造協会との協力により 4 地区で開催，素形材センターとの協力による研修講座，技術セミナーを多くのテーマについて開催。

## 2. 鋳造工学に関する調査研究及び相談事業（公2）

昨年から鋳造工学に関する調査研究事業に加えて，新たに鋳造工学に関する相談事業を加えた。鋳造工学に関する技術的な相談をしたいと考える一般市民に対して相談できる機会を設け，技術的な問題解決に寄与していく。

調査研究事業として，各技術分野の専門家による，鋳造工学に関する研究，調査，技術交流事業を行ってきた。研究委員会の基にある研究部会のほか，地域のニーズに合わせた鋳物研究部会，現場鋳造技術部会，専門部会や合同研究部会による活動を行った。

研究成果は研究報告書により公開し，希望者は報告会等に参加，調査研究結果の有効活用に努めた。また広く鋳造工学に関する情報や資料の収集を行い，その研究成果を発表した。

- (1) 研究部会活動の推進とテキストの発行，技術レビュー記事などを「鋳造工学」誌に発表。
- (2) シンポジウムの開催により研究部会成果を公開。
- (3) 全国講演大会時にオーガナイズドセッションを開催し，部会活動の成果を報告。
- (4) 鋳造技術部会，現場鋳造技術研究会，合同研究会，鋳物研究会，その他各種研究会等多数開催。

## 3. 表彰及び奨励事業（公3）

将来の鋳造産業及び日本の製造業の発展のため，優れた業績を挙げた会員や一般市民に，日本鋳造工学会大賞をはじめ 11 種類の表彰を行った。この他，学術講演会で研究成果を発表した学生の優秀な講演に対する表彰，鋳造関連企業に就職した大学等の卒業生を対象に設けた奨励賞制度で表彰した。また，寄付金をもとに設定した基金から，若手研究者の研究奨励，若手活動支援，新東工業鋳造技術研究奨励の制度により研究等の奨励を行った。

各支部においては，地域に密着した表彰及び奨励制度により，表彰，奨励を実施した。

### (1) 表彰

#### a. 本部関係

日本鋳造工学会大賞（2 件），優秀論文賞（1 件），論文賞（2 件），クボタ賞（1 件），飯高賞（1 件），功労賞（7 件），技術賞（4 件），網谷賞（5 件），豊田賞（3 件），日下賞（3 件），キャストイングズオブザイヤー賞（2 件）の授与

#### b. 支部関係

北海道支部：功労賞 1 名，長岡賞 1 名，東北支部：大平賞 2 名，金子賞 1 名，井川賞 2 名，堀江賞 4 件，関東支部：現場改善賞 2 サークル，特別功労賞 1 名，功労賞 2 名，感謝状 1 件 東海支部：支部賞 12 名，奨励賞 1 名，堤記念賞 1 名，功労賞 2 名，功績賞 1 名，関西支部：石野賞 1 名，功労賞 2 名，技術功労賞 2 名，研究奨励賞 3 件，支部奨学賞 3 名，中国・四国支部：片島賞 8 件，功労賞 1 名，奨励賞 2 名，九州支部：

技能功労賞 3 名に授与。

(2) 奨励

a. 本部関係

特別若手研究奨励金 (1 名), 若手研究奨励金 (5 名), 若手活動支援金 (1 名), 新東工業鑄造技術研究奨励金 (1 名) に授与。

b. 支部関係

関西支部：研究奨励助成 2 件の実施

#### **4. 鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業 (公 4)**

学会誌「鑄造工学」を毎月発刊した。最新の研究論文、技術論文をはじめ技術報告、解説、連載講座「鑄造工学概論」に続き「鑄造要素技術概論」を継続した。現場技術改善事例、レビューの他、シリーズは、学会員の「海外生活体験レポート」を継続掲載した。鑄造業界要人のインタビュー記事、また YFE 委員会による各支部の「YFE だより」も掲載した。Q&A コーナー、また今年の特集を 3 回掲載し、研究者、技術者及び経営者のいずれの方にも役立つ情報を拡大掲載した。また英文誌「Materials Transactions」の 13 学協会との共同発刊に協力するとともに、本会会員の投稿を積極的に推進した。特記事項として、鑄物の科学技術史研究部会が 1997 年に発行した「鑄物の技術史」を改めて紹介し、希望者に無償で配布していた。

また、支部においては地域の会員などとの魅力ある活動の一環で、地域に特徴をもった支部会報の発行を進め、普及を図った。

(1) 学会誌「鑄造工学」の定期発刊

会誌「鑄造工学」第 88 巻第 4 号より第 89 巻 3 号までの 12 冊を発行した。

特集号を 5 月, 8 月, 12 月に発行した。

5 月特集「鑄鉄・鑄鋼の摩耗」

8 月特集「鑄物の品質の安定化」

12 月特集「最近の戦略的基盤技術高度化支援事業による鑄造技術の実用化と課題」

(2) 世界鑄造会議 (WFC2016) の講演概要集 (USB) で発行した。

(3) 全国講演大会講演概要集 (研究報告 152 編) を 9 月に発行した。

(4) 技術講習会テキストを 9 月, 10 月, 11 月に発行した。

9 月「鑄造技術者のための材料力学 (初級編)」

10 月「リカレントエンジニアリング (高強度化, 溶湯・凝固特性, 破損解析)」

11 月「鑄造品に使える非破壊試験と評価基準の確立に向けて」

(5) シンポジウム用テキストを 1 冊 発行した。

テキスト「鑄造品に使える非破壊試験と評価基準の確立に向けて」

(6) 支部会報発刊：北海道支部第 144 号, 東北支部第 52 号, 中国四国支部会報「こしき」

第 39 号の発刊。その他、ニュースレターの発行、各支部ホームページにより地域に合った情報発信を行っている。

#### **5. 会員等に頒布する図書発行事業 (他 1)**

専門誌、図書発行を行う。当事業では、鑄造研究者、鑄造技術者向けに鑄造工学に関する専門誌を発行し、会員はじめ鑄造関連技術者相互の利益を図ることとしている。

主に鑄造分野の特定領域について深く掘り下げた専門性の高い内容を図書としているもので、多くの販売が望めないものであるが、鑄造分野においては必要不可欠な、将来に残すべき内容をまとめて発刊する。その分野の先進の専門家が編集委員会を組織し、データの収集と編集を行っている。今年度は 2007 年に発刊し好評を博している「鑄造欠陥とその対策」の英語版及び「現場技術改善事例集 II」を発刊した。

- (1) テキストなどの発行
- (2) 英語版「鋳造欠陥とその対策」の発行
- (3) 「現場技術改善事例集Ⅱ」の発行

#### **6. 鋳造工学に関する相談事業（他2）**

昨年より「鋳造工学に関する相談事業」を実施し始めたが、具体的には次に記す3つの事業で会員を対象にしたものである。

- 1) 鋳造工学に関する技術相談事業
- 2) 鋳造工学に関する論文執筆相談事業
- 3) 現場技術改善事例の執筆相談事業

#### **7. その他、本会の目的を達成するための事業**

- (1) 国内関係  
他学協会（日本工学会，日本鋳造協会，素形材センター等）との協力
- (2) 国際関係  
国際鋳物機構理事会等への参加，2016年 世界鋳造会議（名古屋開催）の開催，アジア鋳物会議への参加，中国・韓国鋳造工学会との交流，海外開催学会への派遣など。

#### **8. 本会の法人管理・運営に関する事業**

- (1) 総会，理事会の開催（本部，支部）
- (2) 各種委員会の開催など。（本部，支部）

## 2016(平成28)年度事業報告に関する事項

### 1. 総会に関する事項(定款第13条)

2016(平成28)年度定時社員総会

日時 2016(平成28)年5月21日(土) 15:00~16:40

場所 ポートメッセなごや会議ホール

(名古屋市港区金城ふ頭2-2)

出席者 141名(委任状87名を含む)(代議員総数189名)

審議事項 (1)2015(平成27)年度事業報告

(2)2015(平成27)年度収支報告

(3)2015(平成27)年度監査報告

(4)定款変更の件

(5)2016・2017(平成28・29)年度役員選任の件

(6)名誉会員推薦の件

(以上いずれも可決)

報告事項 (1)2016(平成28)年度事業計画

(2)2016(平成28)年度収支予算計画

(3)2016・2017(平成28・29)年度代議員選任報告

(4)若手研究奨励金・支援金, 新東研究奨励金等授与者報告

(5)2016(平成28)年度各賞授賞者

### 2. 表彰・奨励に関する事項(定款第4条)

1) 表彰 2016(平成28)年度各賞の受賞者は次のとおり。

(敬称略)

(1)日本鑄造工学会大賞 ・山内康仁 ・(故)大中逸雄

(2)優秀論文賞 ・志賀英俊 佐藤武志 神戸洋史 本山雄一  
吉田誠

論文賞 ・菅野利猛 岩見祐貴 福尾太志 宮井菜月  
中江秀雄 平本雄一

・柳楽知也 安田秀幸 森田周吾 柳井森吾  
杉山明 吉矢真人 上杉健太郎

(3)クボタ賞 ・大塚公輝

(4)飯高賞 ・熊井真次

(5)功労賞 ・村瀬 充 ・小綿利憲 ・井田雅也

・橋本邦弘 ・米北洋一 ・今西寛文 ・軍司義次

(6)技術賞 ・岡根利光 徳永仁史 本山雄一

・神谷俊吉 高峰知行 柴田直哉

・植杉 浩 鹿島和彦

- ・足羽晋也 上原健文 松本圭司
- (7) 豊田賞
  - ・日産自動車株式会社ハートレイン生産技術本部
  - ・トヨタ自動車株式会社
  - ・アイシン高丘株式会社
- (8) 日下賞
  - ・水木 徹 ・竹内宏光 ・梅谷拓郎
- (9) 網谷賞
  - ・株式会社及精鑄造所 吉見塾分家
  - ・美濃工業株式会社 技術部技術課
  - ・日鋼テクノ株式会社 製造部 鑄造課  
 方案サークル
  - ・東静工業株式会社 伊豆FM工場  
 イーマザーズ
  - ・有限会社渡辺鑄造所 中子QIサークル
- (10) キャスティングズ・オブ・ザ・イヤーズ賞
  - ・株式会社木村工業
  - ・アイシン高丘株式会社

## 2) 奨励

- (1) 2012（平成24）年度から開始した新東工業鑄造技術研究奨励金を1名に授与した。
- (2) 2016（平成28）年度鑄造業関連に就職した大学等の卒業者30名に「奨励賞」を授与した。
- (3) 2016（平成28）年度「特別若手研究奨励金」を1名、「若手研究奨励金」を5名に授与した。
- (4) 2016（平成28）年度「若手活動支援金」を1名に授与した。

## 3. 主務官庁指示に関する事項

下記のとおり内閣総理大臣宛てに報告書を提出した。

- 1) 2015（平成27）年度事業報告書及び収支決算書  
平成28年6月30日
- 2) 2017（平成29）年度事業計画書及び収支予算書  
平成29年3月31日

## 4. 登記に関する事項

- 1) 2016（平成28）年5月21日の社員総会により選任（重任，新任）された新役員を東京法務局に申請し登記簿を変更した。

## 5. 全国講演大会（定款第4条）

- 1) 第72回世界鑄造会議（WFC2016）及び諸行事に関する事項  
日時：2016（平成28）年5月21日（土）～5月25日（水）

場所：ポートメッセなごや会議ホール 名古屋市港区金城ふ頭2-2

参加：961名（この内海外からポーランド48名，韓国39名，中国31名，ドイツ24名，  
他181名）

(1) 口頭発表 157件，ポスター発表 43件

(2) 特別講演

“The Current State of the Japan Foundry Industry and the Significant  
Issues”

経済産業省素形材産業室長 遠山毅氏

“Influence of Graphite Morphology, Thermal History and S and Cu on  
Ferrite/Pearlite Formation in Cast Iron”

早稲田大学名誉教授 中江秀雄氏

“Potential and Tasks of Casting”

トヨタ自動車株式会社 鋳造生技部長 門野英彦氏

(3) 招待講演

“Interfacial Phenomena in Casting Process”

Sungkyunkwan University Toungjig Kim

“Superalloys for Jet Engine and Gas Turbine Application: Evolution  
and Revolution for the Future”

国立研究開発法人物質材料研究機構 原田広史氏

“Trace Elements and Graphite Shape Degeneracy in Nodular Graphite  
Cast Irons”

フランス国立科学研究センター (CIRIMAT) Jacques Lacaze

“Research on ELI Grade Casting Titanium Alloy Its Precision Forming  
Technology”

中国瀋陽鋳造研究所 (SRIF) Yanchun Lou

(4) 工場見学会 総計320名（1班～10班）

1班 ㈱半田キャスティング及び㈱豊田自動織機東知多工場

2班 アイシン高丘㈱本社工場及び㈱マツバラ関工場

3班 栗田工業㈱大東工場及び㈱木村鋳造所御前崎工場

4班 愛知機械工業㈱松坂工場及びDMG森精機㈱伊賀事業所

5班 ㈱大同キャスティングス中津川工場及び美濃工業㈱坂本工場

6班 アイシン精機㈱西尾工場及び㈱デンソー西尾工場

7班 ㈱アーレスティ東海工場及びヤマハ発動機㈱磐田南工場，森町工場

8班 国立大学法人豊橋技術科学大学及び新東工業㈱豊川製作所

9班 国立大学法人名古屋大学及び国立研究開発法人産業技術総合研究  
所中部センター

10班 トヨタ博物館及びトヨタ自動車㈱元町工場

(5) 懇親会 ・ウエルカムパーティー 参加者 約500名

・バンケット 参加者 約700名

・ファンドリメンズナイト 参加者 約500名

(6) 展示会 出展社数 151社（国内企業114社，グローバル企業13社，海外企業24社）

- (7) 企業PRセッション 50社, 入場者数 約18,000名
  - (8) こども鋳物教室 555名参加 (子供319人, 大人236人)
  - (9) シティーツアーと同伴者ツアー
    - シティーツアー参加者 (1回目74名, 2回目164名)
    - 同伴者ツアー参加者 (1回目47名, 2回目45名)
- 2) 第168回全国講演大会及び諸行事に関する事項
- (日本鋳造協会平成28年度秋季大会との合同大会)
- 日時: 2016(平成28)年9月23日(金)~9月26日(月)
- 場所: 高知市文化プラザ「かるぽーと」(高知市九反田2-1)
- 参加: 722名(内 日本鋳造協会44名)
- (1) 研究論文発表 152件(論文賞, 技術賞, 豊田賞, 日下賞受賞記念及びH27新東工業鋳造技術研究奨励講演を含む)
  - (2) 優秀論文賞受賞記念講演
    - a. 志賀英俊君  
「弾塑性クリープ構成式によるADC12合金鋳物の熱応力予測と有効性の実験的検証」
  - (3) 論文賞受賞記念講演
    - a. 岩見祐貴君  
「鋳鉄溶湯の湯面模様とその発生メカニズム」
    - b. 柳楽知也君  
「Al-Cu合金の固液共存体の変形による凝固割れのその場観察」
  - (4) 技術賞受賞記念講演
    - a. 足羽晋也君  
「品質工学を用いたシステムサンドの改善に見るデータドリブンの実線」
    - b. 植杉 浩君  
「鋳造トレーサビリティ・ソリューションによる品質保証システムの研究開発」
    - c. 徳永仁史君  
「高速な粒子法流動・凝固シミュレーションによる対話的湯道設計手法」
    - d. 高峰知行君  
「ハイブリッドスクイズ製法によるアルミサスペンション・アームの開発」
  - (5) 豊田賞受賞記念講演
    - a. 水江保晴君(日産自動車株式会社)  
「HPDC製溶射BLOCKの鋳造技術開発」
    - b. 田端英二君(トヨタ自動車株式会社)  
「離型被膜形成メカニズム解明と塗布技術構築による生産性向上」
    - c. 佐藤高浩君(アイシン高丘株式会社)



「薄肉耐熱鋳鋼タービンハウジングの技術開発と実用化」

(6) 日下賞受賞記念講演

a. 水木 徹君

「鋳鉄溶接時に発生するピンホール発生の原因解明とその防止技術」

b. 梅谷拓郎君

「球状黒鉛鋳鉄と軟鋼のMIG溶接継手の静的強度特性」

c. 竹内宏光君

「高張力鋼板を活用した高強度ダクタイル鋳鉄の溶解・鋳造技術の開発」

(7) 新東工業鋳造技術研究奨励講演

a. 増田秀樹君

「多機能走査型プローブ顕微鏡による鋳鉄中の球状黒鉛の解析」

(8) 特別講演

a. 高知大学 特任教授 岡村 眞氏

「津波堆積物からわかる巨大南海地震の歴史」

b. 経済産業省素形材産業室長 蘆田和也氏

「素形材産業を巡る現状と課題」

(9) オーガナイズドセッション

「現場技術改善事例」

「キュボラによる鋳鉄鋳物製造の進展」

(10) 特別セッション

「観察・モデルシミュレーションの融合」

(11) 工場見学会 参加者 52名

1班 株式会社トミナガ, 有限会社釜原鋳鋼所

2班 ナカシマプロペラ株式会社玉島工場, 武田鋳造株式会社高梁工場

3班 株式会社大亀製作所丹原工場, 株式会社栗田鋳造所, 住友重機械  
ハイマテックス株式会社

4班 株式会社キャストム, 株式会社北川鉄工所福山工場

(12) こども鋳物教室 34名参加

(13) 懇親会 参加者 502名 城西館

開催に先立ち「キャストィングズ・オブ・ザ・イヤー賞」の表彰と、「学生鋳物コンテスト」の表彰式を実施。

(14) 企業技術展示会 カタログ展示コーナー 展示企業 37社,

(15) エクスカーション 参加者 15名 五台山, 桂浜など散策

6. 技術講習会に関する事項 (定款第4条)

1) 「リカレントエンジニアリング (高強度化, 溶湯・凝固特性, 破損解析)」

日時: 2016 (平成28) 年9月23日 (金) 10:00~17:20

場所：高知市文化プラザ「かるぼーと」11F 大講義室

参加者：71名

-題目及び講師-

〔①鋳物の機械的性質改良〕

(1) 鋳鉄の高強度化，軽量化 岩手大学鋳造技術研究センター 堀江 皓

(2) アルミニウム合金鋳物・ダイカストの高延性化・高強度化

日産自動車(株) 神戸洋史

〔②溶湯特性，凝固特性〕

(1) 鋳鋼・鋳鉄の精錬と凝固特性 東北大学ACSセンター 糸藤春喜

(2) 銅合金鋳物の溶湯特性及び凝固特性 産業技術総合研究所 岡根利光

(3) アルミニウム合金の溶湯品質及び凝固特性 日軽エムシーアルミ(株) 北岡山治

〔③破損解析〕

(1) 鋳物屋さんのための破損解析 北海道大学名誉教授 野口 徹

2) 「鋳造技術者のための材料力学(初級編)」関西支部共催

日時：2016(平成28)年9月5日(月)10:00~17:00

場所：近畿大学 東大阪キャンパス BLOSSOM CAFE3階(大阪府東大阪市)

参加者：71名

講師：室蘭工業大学 清水一道

(1) 材料力学基礎，復讐

(2) 材料力学実践・演習

(3) 材料力学実験，実験評価

#### 7. 技術賞・豊田賞受賞記念講演会に関する事項(定款第4条)

受賞記念講演を実施した。

日時：2016(平成28)年9月24日(土)~9月26日(月)

場所：高知市文化プラザ「かるぼーと」

#### 8. シンポジウムに関する事項(定款第4条)

1) 「生型砂管理技術の再構築に関する研究」

日時：2016(平成28)年11月4日(金)10:30~17:00

場所：ウインクあいち 1101室

参加者：78名

2) 「鋳造品の評価技術研究会」

— 鋳造品に使える非破壊試験と評価基準の確立に向けて —

日時：2016(平成28)年11月22日(火)10:00~17:20

場所：東京都立産業技術研究センター

参加者：47名

## 9. 国際会議に関する事項（定款第4条）

### 1) 第72回世界鑄造会議（WFC2016）

日時：2016（平成28）年5月21日（土）～5月25日（水）

場所：ポートメッセなごや会議ホール

### 2) 日韓YFE大会参加

日時：2016年8月25日（木）～27日（土）

場所：韓国航空大学

参加者：熊井国際関係委員長，清水企画委員長，牧野YFE委員長，水谷YFE委員，他日本から35名参加

### 3) 中国鑄造工学会参加

日時：2016年10月28日～31日

場所：成都

参加者：木口会長，角田日本鑄造協会専務理事，増田氏，朴氏

## 10. 出版に関する事項（定款第4条）

### 1) 定期刊行物

会誌「鑄造工学」第88巻第4号より第89巻第3号までの12冊を発行，  
（うち5号，8号，12号は特集号）全会員に配布，希望者に頒布を行った。

### 2) 「鑄造欠陥とその対策」（英語版）発刊。

### 3) 「現場技術改善事例集Ⅱ」発刊。

### 4) 世界鑄造会議WFC(2016)講演概要集（USB）（参加者及び希望者に頒布）

### 5) 講演大会講演概要集（参加者に配布及び希望者に頒布）

(1) 第168回講演概要集 152編

### 6) 技術講習会教材（参加者，維持会員への配布及び希望者に頒布）

(1) 「リカレントエンジニアリング（高強度化，溶湯・凝固特性，破損解析）」  
2016年9月発行，63頁

(2) 「鑄造技術者のための材料力学（初級編）」 2016年9月発行，35頁

(3) 「鑄造品に使える非破壊試験と評価基準の確立に向けて」 2016（平成28）年11月 83頁 鑄造品の評価技術研究部会

## 11. 各種委員会に関する事項（定款第4条）

### 1) 企画委員会に関する事項

(1) 本会及び会員の活性化を目的とした諸企画を立案・実践した。

(2) 各種規程類の見直し・改定を進めた。

(3) 他の学協会との連携を推進するための提案の策定を行い，（一社）日本鑄造協会との秋季大会合同開催及び鑄造カレッジ開催の支援・協力，  
（一財）素形材センターとの研修講座の共催を行った。

(4) 各賞表彰選考及び研究奨励金・支援金授与者の選考を行った。

- (5) 理系学生応援プロジェクトを継続推進した。
  - (6) 第1回「学生鋳物コンテスト」を開催した。
  - (7) 本部と関西支部共催で9月に講習会を開催した。
  - (8) 支部主催の講習会を支援した。
- 3) 編集委員会に関する事項
- (1) 連載講座「鋳造要素技術概論」を継続掲載した。
  - (2) 電子査読システムの運用継続。
  - (3) 英文誌“Materials Transactions”共同刊行を推進した。
  - (4) 第87巻5号で「鋳鉄・鋳鋼の摩耗」, 8号で「鋳物の品質の安定化」, 12号で「最近の戦略的基盤技術高度化支援事業による鋳造技術の実用化と課題」を特集し発行した。
  - (5) 全国講演大会時で「学生優秀講演賞」を秋6名に授与した。
  - (6) 論文賞, 網谷賞の選考を実施した。
  - (7) 「鋳造欠陥とその対策」(英語版), 「現場技術改善事例集Ⅱ」を発刊した。
- 4) 国際関係委員会に関する事項
- (1) 日中韓の鋳造工学会交流を推進した。今年度は中国鋳造学会の講演大会に代表者が参加した。
  - (2) 中国鋳造工学会で「ダイカストの鋳造欠陥・不良及び対策事例集」を翻訳し発刊に関する覚書を取り交わした。
  - (3) 日韓YFE(2016年11月韓国で開催)に派遣した。
  - (4) 英文誌“Materials Transactions”共同刊行への協力。また, 本英文誌へ本会員の研究論文の掲載を支援した。
- 5) 研究委員会に関する事項
- (1) 研究部会活動の推進を行った。
  - (2) 各研究部会の活動状況を理事会で報告した。
  - (3) 全国講演大会で3部会のオーガナイズドセッションを開催した。
  - (4) 鋳造品の評価技術研究部会で「UT技術者養成講習会」を開催した。
  - (5) 生型研究部会がシンポジウムを開催した。
- 6) YFE委員会に関する事項
- (1) 各支部YFE委員により, 「鋳造工学」誌に「YFEだより」の掲載を継続。
  - (2) 各支部毎, 地域の特徴を生かし積極的なYFE活動が展開された。
  - (3) 2016年11月の日韓YFE大会(韓国開催)に参加。
- 7) 財務委員会に関する事項

- (1) 財政強化施策として、経費削減活動を継続的に推進した。
- (2) 広告のカラー掲載増加により広告掲載収入の拡大を図った。
- (3) 会計業務の監督・指導と財政の健全運営化を進めた。
- (4) 2016（平成28）年度決算，2017（平成29）年度予算案の策定を行った。

8) 人材育成委員会に関する事項

- (1) （一社）日本鑄造協会主催の「鑄造カレッジ」開催に協力した。  
4地区で実施。（関東地区，東海地区，北陸地区，中国四国地区）
- (2) 「鑄造カレッジ」上級コースの3年目を開催した。新たに砂型コースが加わった。
- (3) 他の学協会等と共催して，人材育成関連事業の支援を推進した。

9) 広報委員会に関する事項

- (1) 「鑄造工学」第84巻まで，J-STAGEへ掲載し閲覧できるようにした。
- (2) 全国講演概要集の152回～168回までをJ-STAGEに掲載し公開した。
- (3) 会員専用のID及びパスワードで研究論文の最新版を公開した。
- (4) 「鑄物の技術史」を無料配布。
- (5) メーリングマガジンによる学会活動の会員へ配信の充実。

12. 会員移動に関する事項

1) 会員別の増減

会員別	正会員	学生会員	外国会員	維持会員 (事業所数)	維持会員 (口数)	名誉会員
2016年3月末	2,758	94	41	391	532	30
2017年3月末	2,741	86	41	393	528	32
増減	▲17	▲8	±0	+2	▲4	+2

2) 支部別の内訳（2017（平成29）年3月末）

支部	正会員	学生会員	維持会員	同左口数
北海道	59	13	9	10
東北	206	9	31	35
関東	695	29	103	139
北陸	129	6	16	20
東海	885	8	125	181
関西	377	14	57	84
中国・四国	260	1	33	38
九州	130	6	19	21
合計	2,741	86	393（海外0）	528（海外0）